

目指せ！ さいたま考古マスター

君に**挑戦**！ これなんだ??

第 4 回

かいせつ

**その1 小学生がいっぱいあつまって土を
ほってるよ。**

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. 花壇(かだん)づくり

こんなときこそ身近に花を？

2. 発掘調査(はくつちょうさ)

未来のマスターたち？



ヒント めざせ！さいたま・・・。

答 え 2. 発掘調査

解 説

写真は、南区にある浦和別所小学校で行われた、同校6年生のみんなの発掘調査体験のようすだよ。浦和別所小学校では、仮校舎を建てる計画がすすんでいるんだけど、その場所に、大昔のくらしのあとがのこっていることがわかったんだ。そこで、工事の前にくらしのあとのようすをくわしく調べるために、発掘調査が実施されたんだよ。

発掘調査は、令和元年の9月から令和2年の3月まで、およそ半年実施されて、おもに縄文時代の中期、弥生時代の後期、古墳時代の前期、という三つの時代のくらしのあとが重なり合って見つかったんだよ。ほかにも、戦国時代ころや江戸時代のものもあったんだ。いろんな時代の人たちのくらしのあとの上で運動したり、遊んだりしていただなんて、すごいなあ。

発掘調査中は、そのはんいの校庭は使えなくなって、浦和別所小学校のみんなにはいろんなことをがまんしてもらったと思うんだ。浦和別所小学校のみんなと、いろいろと協力してくださった先生がたに感謝！

でも、学校の中で発掘調査をしているのは、大昔のくらしのようすにふれる、またとな

いチャンス。デジタルやバーチャルがまわりにあふれている時代だからこそ、実物にふれたり、いきいきとした体験をしたりすることはとっても大切だと思うんだ。それで、校長先生や教頭先生にもお願いし、校長先生、教頭先生からもみんなに是非、きちょうな体験をさせてあげたい、っていうオファーをいただいて、全校のみんなの見学会と、歴史（れきし）の勉強をした6年生の発掘調査体験が実現したんだよ。

それじゃあ、その日のようすをもう少し詳しく紹介するよ。

参加するみんなが発掘調査場所にきたら、まず、けがをしないで安全に発掘調査を行う約束や、どんなふうに調査を行うのかを、教育委員会の考古マスターと、実際に調査をたんとっている遺跡調査会の先生から説明したんだ。発掘調査を行っている場所は、いろんな穴があったりして、危険がいっぱいなんだ。自分の安全と、まわりの人の安全はとっても大切なことなんだよ。

それと、発掘調査は、何百年、何千年もかけてうまっていたところを掘り返す作業の積み重ねなんだ。早く何かを見つけたい、って思って、らんぼうに土を掘ったら、何千年もの歴史をこわしてしまうこともあるんだよ。今や未来のことは、失敗したってだいじょうぶ、やり直すことはいくらでもできるけど、昔のこと、過去（かこ）の積み重ねは、こわすのは簡単だけど、二度と同じ形にはもどせないんだよ。土の中にきざまれた「とき」をきちんと掘り出して、みんなの「たから」にするためには、いろんな約束ごとがあるんだよ。

そういう約束をしたら、いざ、大昔のくらしの地面へ！下の写真は、どんなものが見つかっているのかの説明をきいているところだよ。手前にある大きな穴は、弥生時代の家のあとなんだ！



さあて、いよいよ発掘調査の体験だ。

道具を持って、ぶんたんするところについたら、ていねいに土を取り除いていくんだ。発掘調査は、大昔の人が掘った穴にうまった土を取りのぞく作業なんだ。どんな形の穴かは、調査してみないとわからない。だから、ていねいに、広く浅く掘り進めていくことが大事なんだ！

今回の発掘体験では、江戸時代頃につくられた「溝（みぞ）」の調査を手伝ってもらったんだよ。「溝」っていうのは、長いきよりをほぼ連続して掘られた穴のことだよ。田んぼに水を入れるための用水路（ようすいろ）や、不要な水を流すための排水路（はいすいろ）なんかも、遺跡の世界では、「溝」って呼ばれることが多いんだ。そうそう、第3回でしようかいした「方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）」も、まわりを溝でかこわれてたよね。そのほかに、外から敵が入ってくるのをふせぐためのものや、土地のさかいをはっきりさせるためのものものなんかもあるんだよ。



問題に出した写真に少し線や文字をたしてみたのが、上の写真。浦和別所小学校のみ

んなは、向かい合って作業しているけど、みんながしゃがんでいるあたりが、溝の両側なんだ。写真の手前から奥(おく)までまっすぐにこの溝がのびているのがわかるかな？ まんなかあたりの人がいなくて掘りあがるとどんなふうになるのか、わかりやすいように、先に掘り上げてあったところだよ。上はばが1 m40 c m、深さが50 c mの立派な溝だよ。

溝の右側にある大きな穴は、弥生時代の家のあと。ずいぶん溝と近いけど、弥生時代の家のあとがうまった土を掘って、この溝がつくられているからだよ。つまり、新しい時代のくらしのあとが、古い時代のものをこわしているんだよ。こんなふうに二つの穴が重なっていると、こわしている方が新しい=こわされている方が古い、っていうことがわかるね。穴どうしの古い・新しいっていう関係は、大昔のくらしを調べる上では、とても重要な情報なんだよ。

ところで、発掘調査を行うと、何が一番たくさん出てくるか、わかるかな？

- ① 汗と涙
- ② 土器や石器
- ③ 土

真夏の発掘調査では、汗が出てはかわき、をくりかえすので、首のまわりに塩がかたまってじゃりじゃりになったりするんだ。それに、苦労してみんなで力をあわせて行った発掘調査が無事に終わって調査のはんいを埋めもどすときなんか、目頭に熱いものを感じたりすることもあるんだよ。あ、これはみんなには内緒だよ。でも①じゃないな。

遺跡によっては、何十 c mも土器や石器ばかりがうまっていたり、出土品を収める箱で何百箱にもなることもあるよ。でも、②でもないなあ。

そう、発掘調査で一番多く出てくるのは・・・正解は、③です！③の土なんだ。

雨や風で運ばれて来たり、落ち葉や草がたまったり、ときには、新しい土地利用のために土を運んできて整地したり・・・自然の力や人のはたらきによって、遺跡の中は土がいっぱい！だから、発掘調査の作業の大部分は、土を掘る作業なんだよ。

でも、好き勝手に土を掘るわけじゃなんだよ。仏像をつくる名人が、自分は木を彫り仏像をつくるんじゃなくて、木の中に隠れている仏のまわりの木を取りのぞいているだけなんだ、って話しているのをきいたことがあるんだけど、発掘調査もそれと同じようなものなんだよ。自分たちが掘りたい穴を掘るのではなくて、大昔の人が掘った穴が地面の中であって、そこに土が流れ込んで埋まっている。その、あとから埋まった土を取りのぞいて、大昔の人が掘った穴の形を出していく、これが発掘調査で土を掘る作業なんだ。だから、掘れどもほれども土ばかり、なんてことも当たり前。だけど、土器などが出土しないと、どんな時代のものなのかを決める手がかりがないってということにもなるね。

右の写真は、浦和別所小学校のみんなの作業で出土したかたまりを、調査を担当している遺跡調査会の先生が判定しているところ。黄色い矢印の先に出土したかたまりがあるよ。ドキドキしながら先生の判定をまっている子たちの生き生きした表情は忘れられないなあ・・・。



問題の写真の正面に、水色のシートのかかっている山があるね。これは、発掘調査をしている地面の上にたまっていた土を積み上げたものなんだよ。みんなが掘った土も、調査をしているはんいの外に運び出してまとめてあるんだ。

写真の右上の方に、赤丸でかこったところがあるのわかるかな？みんなが掘った土を一輪車に積んで、坂道をのぼって土置き場に置きに行ってくれた人がもどってきたところだよ。土をのせた一輪車で坂道をのぼるのは、けっこう大変なんだけど、のせる量が少ないと作業の効率（こうりつ）が下がるし、のせる量が多すぎると一輪車をコントロールできなくなったりするし・・・。それに、でこぼこ道だと土をこぼしたり、ころんでしまったりするから、作業の通路や坂道をメンテナンスすることも大事だね。発掘調査は、大昔のくらしのあとを調べることが中心だけど、調査を進めていく上では、いろんな仕事があるんだよ。今日の挑戦その2でも、発掘調査のようすを少し紹介しているよ。

■南区・別所遺跡（べっしょいせき）の発掘調査のようす

■令和2年1月30日、浦和別所小学校校庭

その2 地面にねそべるあやしい人。これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. つかれはてて休んでいる
つかれたときにはねるのが一番？
2. 深い柱のあとを掘っている
ねないと手がとどかないのよ！



ヒント かたわらにはヒシャクが・・・。

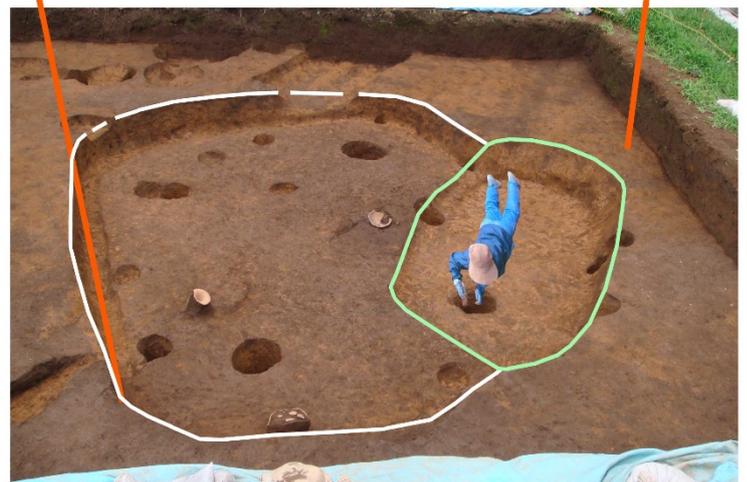
答え 2. 深い柱のあとを掘っている

解説 写真は、緑区にある大在家遺跡（おおざいけいせき）で行われた発掘調査のひとつだよ。「こたえ」のところで説明したように、古墳時代初期のころの家を調べているところだよ。「こたえ」には、問題の写真のときから、もう少し調査が進んだときの写真をのせたけど、二つの写真を見くらべてみたかな？二つの写真をならべて、少し人の姿や線をおぎなってみると、こんなふうになるよ。



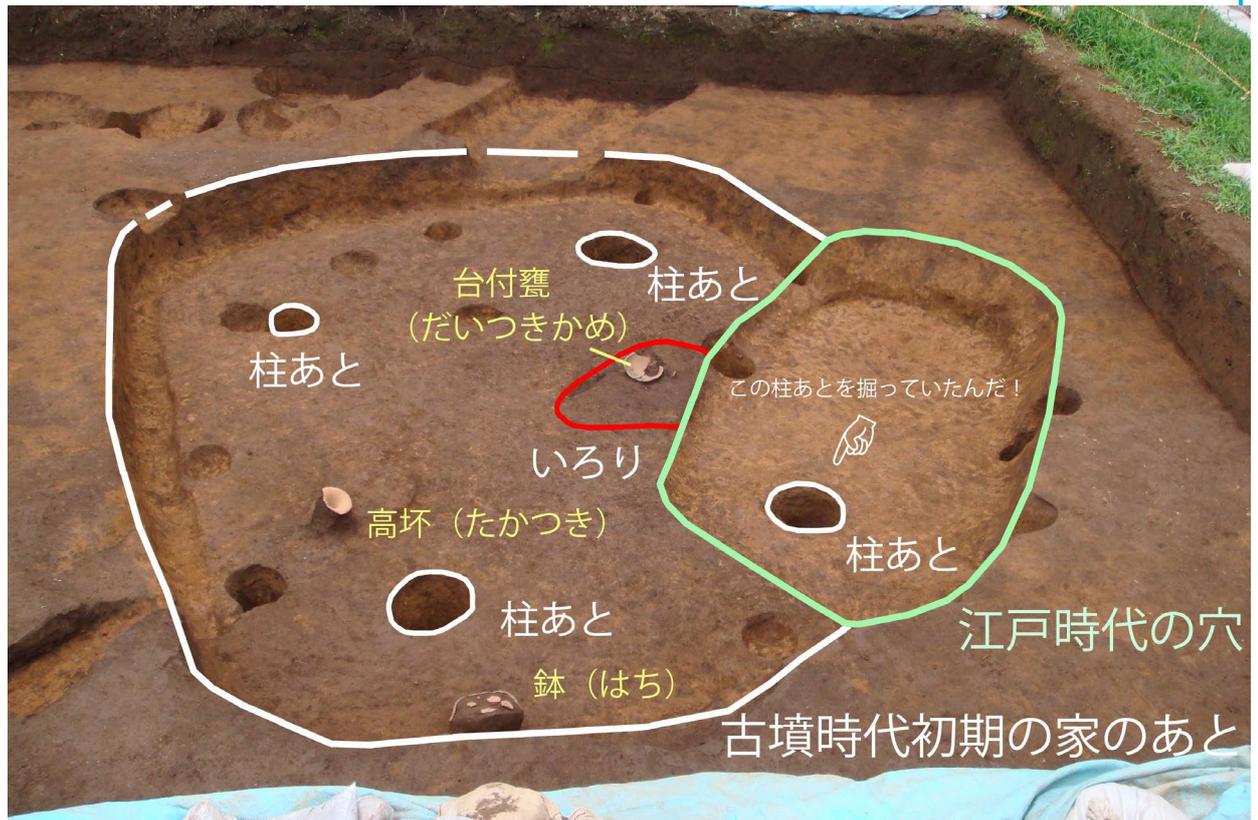
だいぶ調査が進んだね。大きな穴が二つ重なっていることがわかるかな。作業している人がねそべっているところは、古墳時代の家のあとが埋まったあとに掘られた別の穴なんだ。江戸時代の後半頃に掘られた穴なんだけど、どんな目的で掘られた穴なのかは、わからないんだ。掘っている人を重ねてみると、人ひとりがすっぽりおさまるくらいの穴だねえ。

古墳時代の家のあとは、この穴が掘られたために一部こわされてしまっているんだ。でも、柱の穴は上の方がこわされただけで、大部分は残っ



ていたんだ。ねそべっている人が掘っているのは、その家の柱の穴なんだよ。

よく見ると、家のあとの中いくつか土器みたいなものがみえるよ。家のしつらえとあわせて、かいせつを付けてみると、こんなふう👉になるよ。



一部こわされていたところがあったけど、家の形をだいたい確認できたんだ。👉のところ、問題の人が掘っていた柱の穴だね。屋根を支える柱は、地面に掘った穴に根元を埋めて、立てていたんだ。この家の柱の穴の深さは、なんと70cmもあったんだよ！柱をしっかり立てるために、そんなに深い穴を掘ったんだね。じゃあ、この家をつくった人たちは、そんな深い穴をどうやってほったんだろうね。

赤い線でかこったところは、いろりのあとだよ。台付甕（だいつきかめ）という、煮炊き（にたき）に使う土器の破片も残っていたんだよ。いってみれば、コンロにかかっていたおなべが残っていた、っていう感じ。

アップの写真も用意したよ！
どんなふう埋まったのかを調べるために、半分だけ先に掘ったところなんだけど、まだ掘っていないところの土は真っ黒だね。よく見ると、ところどころ



に赤い粒が混ざっているのがわかるかな？これは焼けた土なんだ。まんなかあたりにある白っぽい「C」みたいな形のものが、台付甕だよ。底に近いところの破片で、右側が底で、本当はそこに台形の台がついたんだ。左半分が少し黒っぽくなっているのがわかるかな？土器の内側の上の方がこげているんだね。この台付甕は破片だけで元の形にもどせなかったので、参考に別の遺跡から出土した台付甕の写真を用意したよ。



いろりを最後まで掘ると、下の写真のようになったんだよ。

赤くてごつごつしているところがあるね。ここが一番よく焼けているところ。土が赤く変色しているんだ。そのまわりも、熱を受けていないところよりも白っぽくなっていて、何度もなんども火をたいていたことがわかるんだよ。なお、手前側に段がついているのは、江戸時代頃の穴でこわされてしまったところだよ。

いろりでは、台付甕を使ってお湯をわかしたり、食事をつくったりするほかに、冬の暖房や夜のあかりにもなったようだよ。



台付甕（だいつきかめ）

■弥生時代後期

■緑区・井沼方遺跡（いぬまかた
いせき）出土。市指定文化財



右の写真は、家のかべぎわで鉢（はち）が見つかった様子だよ。3分の1くらいはこわれて、底（そこ）の方もなくなってしまっていたので、はっきりはわからないんだけど、もしかしたら、「こしき」という土器かもしれないんだ。「こしき」は、底に穴があいていて、台付甕などの上に乗せて、下でわかしたお湯の水蒸気でお米などを蒸（む）すときに使うんだ。



さあて、発掘調査が終わったら、出土した土器などの土を落としたり、どの遺跡のどんな穴から出土したのかを書き込んだり、っているいろんな作業があることは、第2回の挑戦のときに紹介したね。この大在家遺跡（おおざいけいせき）の発掘調査でも、そうした作業が行われて、今しようかいした土器などは、こんな風になったんだよ。



台付甕(だいつきかめ)



鉢(はち)



高坏(たかつき)

なくなってしまっていた破片も多くて、完全な形には戻せなかったんだけど、写真を拡大してみると、土器の作り方（しあげ）のようすもわかるよ。

■緑区・大在家遺跡（おおざいけいせき）の発掘調査のようす